

# 5 さまざまな取組

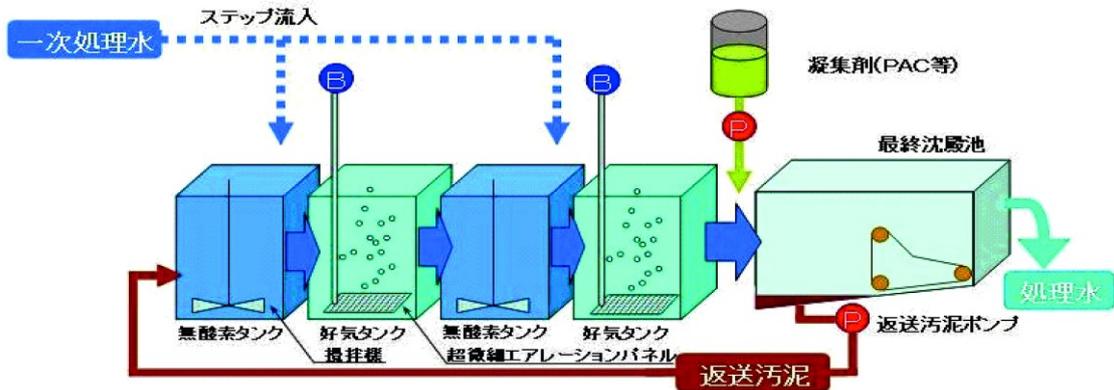
## 5-1 さらなる水質の保全・向上

### (1) 高度処理の推進

高度処理は、水道水源の水質保全や閉鎖性水域の富栄養化防止等を目的として、通常行われている標準的な下水処理よりも有機物を高度に除去したり、標準的な下水処理では十分に除去できない窒素やリンを除去したりするものである。

京都府においては、洛西浄化センター、洛南浄化センターおよび木津川上流浄化センターで、市町村においては京都市、宇治市および南丹市の処理場で高度処理を実施している。農業集落排水や浄化槽についても、良好な水環境の保全のため、高度処理を導入しているものがある。

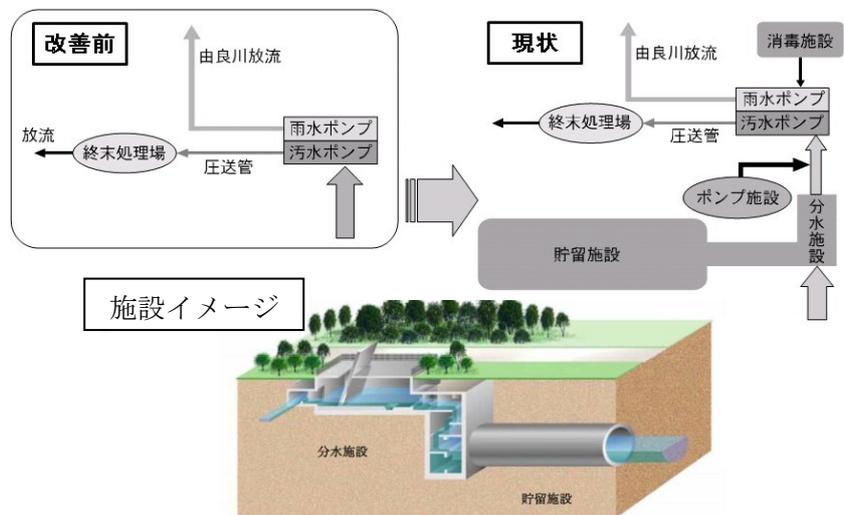
窒素およびリンを除去できる高度処理法（ステップ流入式多段硝化脱窒法）の模式図



### (2) 合流式下水道の改善

合流式下水道については、降雨時にし尿を含む未処理下水が放流されることによる水質汚濁が問題となっており、その改善が課題になっている。

福知山市では、平成 17 年度から旧市街地の合流式下水道の改善に取り組み、平成 23 年 8 月に供用開始した。この事業は、由良川の水質を改善するため、降雨初期における汚れが著しい雨水や汚水を一時的に貯留する施設、細かいゴミを取り除くスクリーン等を整備し、放流負荷量を分流式下水道並みに軽減するものである。



## 5-2 地震への対応

### (1) 下水道の耐震対策

大規模な地震時において、未処理下水の流出による水道水源の汚染や伝染病の発生、処理場の機能停止によるトイレの使用停止、管渠やマンホールの破損による緊急輸送路の交通障害、浸水被害の発生等を防止し、最低限の下水道の有すべき機能を確保できるよう、下水道の耐震対策が求められる。

京都府流域下水道では、当面の目標として、被災すると機能に重大な影響のある施設の耐震化を図ることとし、処理場においては簡易放流できる最低1ラインの確保、管渠においては緊急輸送路や河川の横断部等（被災後に二次災害の発生が予想される個所）の耐震対策を行っている。

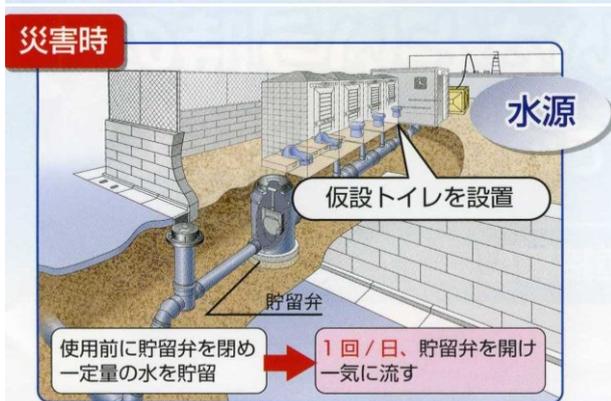
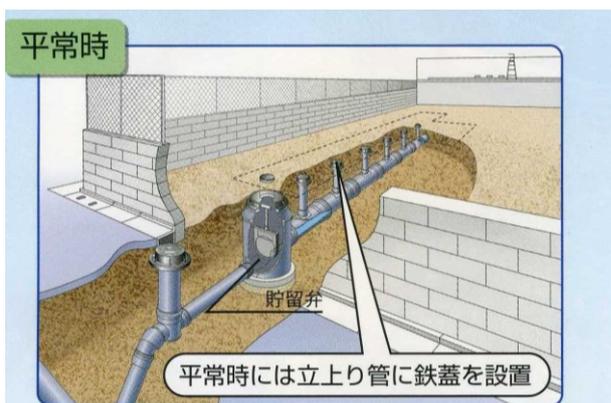
また、大規模な地震が発生した場合でも、機能を維持または早期回復するため、「下水道事業の業務継続計画（下水道BCP）」を府内全市町で策定している。

洛西浄化センター管理棟(南館)耐震化工事  
上：着工前 下：完成



### (2) 災害用マンホールトイレの設置

長岡京市は、災害時におけるトイレの問題を解消するため、避難所となっている市内の小中学校（全14校）において、平成21年度から災害用マンホールトイレを設置しており、平成27年度までに221基を設置した。また、平成28年度は、市立中央公民館に5基を設置した。



マンホールトイレ敷設状況



仮設テント・トイレ便座設置状況

